

学生達の教育プロジェクトを支援
Educational Challenge



新しい可能性に挑戦！

2025年度 最終成果報告



信大見本市でのEducational Challenge紹介



2024年度中間発表会



2024年の採択プロジェクトが決定しました



Educational Challenge2024 募集開始!



2023年度最終成果報告書

※本プロジェクトは、下記の団体・企業・個人様からご支援をいただき実施しております。(令和8年2月現在)

- ・(公社)信濃教育会 様
- ・(公財)栗田病院 様
- ・(株)礎建装 様
- ・(株)丸富士 様
- ・(株)徳永電機 様
- ・(株)新日本設計 様
- ・(株)黒船 様
- ・岡学園トータルデザインアカデミー 様
- ・長野県小学校校長会 様
- ・長野県中学校校長会 様
- ・ANGELUXアカデミー 様
- ・徳田節子 様
- ・第一地区住民自治協議会 様
- ・信州大学教育学部尚学会 様
- ・信州大学教育学部同窓会 様
- ・村松浩幸 様



Educational Challenge 2023年度最終成果発表会



本日は昨年につき、この場に参加させていただきありがとうございました。皆さんの発表を拝聴しながら、教育とは単に知識や技能を伝える営みではなく、人の心に希望を灯し、社会とつながりながら未来を形づくっていく創造的な営みであることを改めて実感しました。どの発表にも共通していたのは、子どもと真剣に向き合い、自ら考え、試行錯誤しながら実践をつくり上げてきた姿勢です。その姿から、教員として最も大切にすべき「核」の部分にすでに触れていることを強く感じました。



「EduMed」

最初の実践では、「閉じる決断」や「苦渋の決断」という言葉が象徴するように、活動の背景にある深い葛藤と責任が伝わってきました。特に、病気と向き合う子どもが活動を通して希望を見いだしたという保護者の言葉は、この実践の本質を端的に示していたと思います。人が生きるうえで「希望を持てる」ということは、何よりも大きな意味を持ちます。その希望を支える存在になれたことは、教育に携わる者として極めて価値のある経験です。一方で、ボランティア活動は熱意だけでは持続しません。関わる側が疲弊してしまえば、結果的に活動も続かなくなります。だからこそ、継続可能な仕組みをどうつくるか、個人の献身に依存しない体制をどう整えるかという視点が重要になります。今回の実践は、その意義と同時に、持続のあり方を考える契機も提示していたように思います。

「Welcome to Zenkōji! — Kids English Tour 小学生の英語学習と外国人観光客をつなぐ実践活動」

ウェルカムキッズの英語活動では、学生が主体となって場を構想し、子どもたちに実際に英語を使う機会を創出した点に大きな意義を感じました。小学校英語は制度として導入されていますが、現場では指導への不安や負担感が少なくありません。ALT 任せになったり、デジタル教材に依存せざるを得なかったりする現状もあります。そのような中、学生が柔軟な発想を生かし、体験的で温かみのある活動を組み立てたことは、学校にとって大きな支えになります。また、「ゼロから活動をつくる難しさ」に向き合った経験は、教員として極めて重要です。学生時代に創造の苦勞と達成感の両方を経験したことは、将来必ず大きな力になると感じました。

「ワクワクサイエンス・オン・ザ・ゴー」

この実践からは、理科の楽しさの原点を強く思い出させられました。多くの子どもは小学校段階では理科に興味を示しますが、学年が上がるにつれてその関心が薄れていく傾向があります。その背景には、体験の減少や学習内容の抽象化があるのかもしれませんが。今回のように、驚きや発見を伴う実験体験を継続的に提供することは、学びへの内発的動機づけを高めるうえで非常に有効です。「もっと知りたい」という気持ちが芽生えれば、自ら学びを深められる環境が整っています。まずはその火種を灯すことが重要です。ただし、小学校理科は準備や片付けに多くの時間と労力を要し、担任にとって負担が大きい教科で

もあります。だからこそ、誰もが実践しやすい教材の共有や仕組みづくりが求められます。今回の実践は、理科教育を再び魅力あるものとして再構築する可能性を示していました。

「みんなで模擬投票プロジェクト 2025～SNS 時代、君たちはどう投票するか～」

デジタルや AI を扱った模擬投票プロジェクトの実践は、現代的課題に真正面から向き合う取り組みでした。AI や AGI の進展によって、人間の役割そのものが問い直される時代に入っています。知識の量や計算の速さでは機械にかなわない社会において、人間に求められるのは何か。それは、最終的な判断を引き受ける力であり、価値を選び取る責任です。今回の実践では、デジタルツールや SNS を活用しながら、子どもたちが情報を比較し、考えを整理し、他者と対話しながら判断する経験を重ねていました。これは単なる ICT 活用ではなく、主権者としての資質や批判的思考を育てる本質的な教育です。AI 時代だからこそ、人間の判断力を鍛える教育が不可欠であることを改めて実感しました。

「ステップアップメイカーズプロジェクト」

このプロジェクトでは、「つくること」の本質的な価値が示されていました。既製品やデジタルコンテンツが溢れる社会の中で、子どもたちが自らの手で素材と向き合い、試行錯誤しながら形を生み出す経験はますます貴重になっています。ゼロから何かを創り出し、完成したときの達成感、自己効力感や主体性の基盤となります。こうした経験を学校の中で保障することは、未来を生きる子どもたちにとって大きな意味を持ちます。しかし、新しい取り組みには必ず慎重な声も上がります。それでも、子どもが夢中になって取り組む姿こそが最も説得力のある証拠です。信念を持ち、理解者と協働しながら実践を積み重ねていくことが、学校文化を少しずつ変えていく力になると感じました。

「結（むすび）～龍溪硯の制作を高遠高校の生徒と共に～ チーム『書』どう？」

最後の硯の実践は、地域文化と教育を結びつける深い意義を持つ取り組みでした。硯という伝統的な素材を通して、子どもたちは単なる技術だけでなく、その背景にある歴史や職人の思い、地域の文化に触れていました。素材に向き合い、時間をかけて形を整える過程には、効率とは異なる価値が宿っています。そこには「急がない学び」「手で考える学び」があります。地域の資源を教材化することは、子どもたちが自分の足元にある価値を再発見することにもつながります。学校と地域が結びつくことで、学びは教室の中に閉じず、社会へと広がります。この実践は、地域に根ざした教育の可能性と、伝統を未来へとつなぐ役割を示していました。

全体を通して

本日の発表は、希望、創造、判断、地域とのつながりという多様な側面から、これからの教育の姿を具体的に示してくれました。どの実践も、子どもの可能性を信じるころから出発しています。ぜひ、この経験を糧に、現場に出ても挑戦を続けてください。教育は一人で行うものではなく、仲間とともに広げていくものです。

本日は本当に豊かな時間をありがとうございました。皆さんのこれからの歩みに、大きな期待を寄せています。

以上

プロジェクト代表学生からの御礼の言葉

01 EduMed 代表：山口 泰聖（総合人文大学院・臨床心理学コース・2年）

今年度もご支援を賜り、誠にありがとうございました。ご支援のおかげで、入院中の子どもたちに向けた音楽や工作などのイベントを継続して企画・実施することができました。しかし、誠に勝手ながら今年度ももちまして EduMed の活動を終了する決断をいたしました。3年間にわたり Educational Challenge にてご支援を賜りましたことに、心より感謝申し上げます。支援があったからこそ、本活動を継続することができました。メンバーの負担や今後の意向を踏まえ、活動を終えるという選択に至りましたが、入院中の子どもたちへの支援が重要な課題であるという思いに変わりはありません。EduMed での活動を通して得た学びを、今後それぞれの立場で活かしていきたいと思えます。これまでのご支援に、改めて心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

02 Welcome to Zenkōji! - Kids English Tour 代表：池田夢海（現代教育コース・3年）

この度は、ご支援を賜り、活動を支えてくださり誠にありがとうございました。活動を進める中で初めての経験も多く、悩むこともありましたが、その悩みを仲間と共有し、活動をよりよくするために共に考え続けた時間は、私にとって忘れられない大切な経験となりました。本当に多くのことを学ばせていただいたと実感しております。

また、本活動を通して、学生仲間だけでなく、参加児童や保護者の皆さま、外部の方々など、普段の学校生活だけではなかなか関わることのできない多くの方々と交流する機会をいただきました。その一つ一つの出会いと対話を通して、視野を広げるとともに、自分を一步前へと成長させてくれる大きな学びを得ることができました。そして何より、多くの方が温かく応援してくださっていることを実感し、その支えがあったからこそ挑戦を続けることができたのだと感じております。

Educational Challenge に応募し、このような挑戦の機会をいただけたことに心より感謝しております。この経験を決して無駄にすることなく、これからも自ら挑戦し続けるとともに、周囲で挑戦している人にそっと手を差し伸べられる存在になれるよう努力してまいります。

改めまして、この度のご支援に心より感謝申し上げます。

03 ワクワクサイエンス・オン・ザ・ゴー 代表：草川妃莉（理科教育コース・4年）

この度は、出張！なんでも実験団のプロジェクトにご支援いただき、誠にありがとうございました。

本プロジェクトを通して、子どもたちが楽しそうに活動に取り組んでいる姿、どうしたら上手くいくのか友達と試行錯誤している姿、上級生が下級生に教えてあげる姿など様々な子どもたちの様子をみることができました。また、プロジェクトに参加した学生もどんな活動にしたら楽しんでもらえるのか、どうしたら上手くいくのかなど、プロジェクトを通して多くのことを学ぶことができたように感じています。

これらの経験は、皆様のご支援なしには実現し得なかったことです。改めまして、温かいご支援に心より感謝申し上げます。

04 みんなで模擬投票プロジェクト 代表：古岩井陽喜（社会科教育コース3年）

このたび、私たちのプロジェクトに大いなる支援を賜りましたこと、深く御礼申し上げます。支援いただいたお蔭で、本プロジェクトを通して、私たちは大いなる学びを得ることができました。この学びは、きっと我が国を背負って立つことになっていく子ども達に行う主権者教育の糧となっていくことだろうと思います。さらに、目の前の子ども達の実態も知ることができ、非常によい経験になったと考えております。

さて、プロジェクトを行っているこの1年の間にも、多くの選挙がありました。先日も衆院選が行われ、私たちはSNS時代における主権者教育を考えるうえでこの選挙を注視していました。そして、ご存じの通り非常に驚くべき結果が出ました。このような結果となったのは様々な要因があるだろうと思います。しかし、やはり今回の世論形成に最大の影響を与えていたのはSNSだったではないでしょうか。実際、選挙期間中にはX、Instagramをはじめ、YouTubeやTikTokといったプラットフォームにおいても多数の衆院選候補者に関する情報、つまり動画などが溢れていました。真に恐ろしいのは、これらの動画が候補者によって作成されたものではなく、実にほとんどがまったく無関係の第三者によって作成されていたという点です。それらの動画は、候補者の関わっている、ある場面の一部分のみを切り抜き、そこに一部分のみを誇大した印象付けやAIによるディープフェイクなどの要素がすぎ足され、情動的に拡散されます。私たちは今回のプロジェクトで候補者による発信ばかりに注目していましたが、実態はこのように第三者による発信が世論形成に影響を与えていたのです。今回私たちが作成したショート動画によって、あまり生徒たちが揺り動かされていないように見えたのは、この実態の把握不足に原因があったのかもしれない。その点が私たちの今回の反省点です。しかし、このような反省点が生まれ、私たちがSNS時代の選挙というものを見直すことができたのは、ひとえにこの「みんなで模擬投票プロジェクト」へのご支援のお蔭だと思っております。私たちがこれからアプローチすべきことが発見できました。改めて、支援くださった関係者の皆様には深く御礼申し上げます。

私たちが子どもであったとき、AIは絵空事のようなものでした。しかし、現在の私たちを取り巻く環境は、生成AI、そしてSNSにもはや支配されているとあってよいでしょう。これからの子ども達は、小さなころからAIがそばにあり続ける、そのような世界に生きることとなります。子ども達は、これから社会を担っていきますが、もしかすると、こうしたAIや情動的なSNSに揺り動かされて投票をしようと考えられるかもしれません。現状、私たちがそうした状況に巻き込まれている以上、子ども達も将来そのように巻き込まれていくことは必然だと考えます。しかし、SNSやAIに世論がゆがめられることがあっていい訳がありません。私たちは、まだ主権者教育によって、このムーブメントを止めることができると考えています。ですから、今回このようなプロジェクトのテーマを設定しました。私たちは、SNS時代の主権者教育のあり方に今回一歩近づくことができたと考えています。

改めて、私たちのプロジェクトを評価していただき、支援いただいたことに感謝申し上げ、御礼のメッセージといたします。

05 ステップアップメイカーズプロジェクト

代表：川嶋丈陽（教職大学院教職基盤形成コース・2年）

一昨年、昨年に引き続き、メイカースペースプロジェクトにご支援を賜り、心より感謝申し上げます。皆様のご協力により年々子どもたちの活動が活発になっており、本年度は「ステップアップメイカーズプ

プロジェクト」と命名し、子どもたちの創造力を育む場としてだけではなく、キャリアの視野を広げるための場として活動してまいりました。結果、これまで以上に利用者が増え、子どもたちのユニークで挑戦的な制作はもとより、他者意識をもった制作や社会へ向けた具体的な制作に立ち会う機会を得ることができました。また、レーザーカッターを用いた簡易的な体験会も開催し、子どもたちのものづくりに対する視野を広げるきっかけを与えることができました。ひとつひとつ書き記すことはできませんが、そのすべてが子どもたち、私たちにとって大切な糧となりました。今後も、メイカースペースが子どもたちの成長にとって大切な場となるよう尽力してまいります。改めて、ご支援いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

06 結（むすび）～龍溪硯の制作を高遠高校の生徒とともに～

代表：橋詰麻由（国語教育コース・3年）

この度は私たちのプロジェクトにご支援をくださり、深く感謝申し上げます。誠に有難うございました。ご支援いただきましたおかげで、高校生との充実した高大接続協働学習が展開できました。実際に硯の制作を行うことで、硯工の方々が硯一つ一つの制作に注ぐ時間と思いを実感すると同時に、長野県の文化資産を大変誇らしく思い、龍溪硯を伝承していくことの重要性を再確認できました。そして、伝承の危機にある龍溪硯の魅力を次世代に伝えていきたいという思いが、大学生、高校生ともに高まりました。

高遠高校芸術文化コース書道専攻の皆さんとの協働学習を通して、本プロジェクトの目的である「郷土の誇るべき文化資産や書道教育に関わるものについて造詣を深め、硯についての専門知を次世代へ発信すること」が達成できたと考えています。本プロジェクトで得た多くの経験を今後の取り組みに活かし、これからもより一層成長できるよう努めていきたいと思っております。

EduMed 最終報告

2026.2.12

メンバー：山口泰聖・川岸歩実（臨床心理学コースM2）

石川日菜里・丸山心和海（国語教育コース4年/3年）

EduMedの活動方針

入院中の子どもたちのQOL向上に寄与するとともに，医療スタッフや家族以外の第三者のかかわりをつくり子どもが子どもでいられる関係・時間をつくる。また，学生に入院児や慢性疾患のある子どもの実態について体験的に知る機会をつくることで多職種連携や実践現場で様々な子どもの支援について理解を深める。

活動の課題

3年目の活動として今後どのように活動をしていくのか，今の団体としてできることは何かを具体化して活動をしていく必要がある。

今年度の最終報告

今年度をもって活動を終えることを決断

目次

- ▶ 今年度の活動について
- ▶ 今後の活動予定
- ▶ 活動終了を判断した理由
- ▶ これまでの活動の振り返り

今年度の活動と合わせ
3年間の振り返りも
含ませていただきます

今年度の活動

【活動成果】

1. 信州大学医学部附属病院でのイベント
2. ボランティアへの参加（稲荷山祇園祭など）
3. EduMed通信の発行
4. 外部とのつながりづくり「wacca!」

今年度の活動

〔信大附属病院でのイベント〕

6月に楽器づくりのイベントを企画/実施をした

病院内では自由に音を出したりできないため、
納得の音が出るようにがんばってつくっていた。
また、元気のなかったお子さんが楽しむ姿があった。



〔稲荷山祇園祭〕

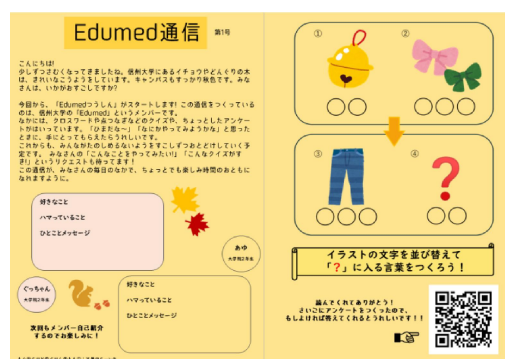
ボランティアで参加
ICTを活用して稲荷山医療センターと中継



今年度の活動

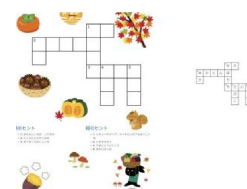
〔EduMed通信の作成〕

イベントにこだわらず、ハードル低く
提供できる“通信”という
形式で企画を考えた。



〔つながりづくり〕

「wacca!」という全国規模の
入院中の子どもたちの支援に
取り組んでいる団体とのつながりを
持つことができた。



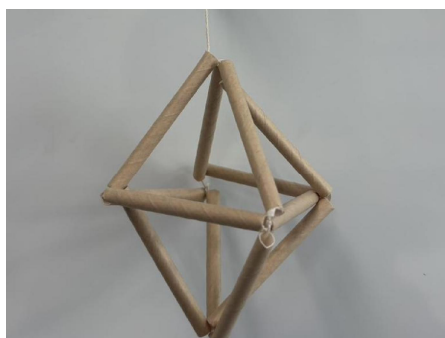
「wacca!」
病気療養中の子どもたちと関わる
学生がつながり、ひうける“学びのわ”

今後の活動予定

● 信大附属病院でのイベント

2月16日に行う。「ヒンメリ」を手作りするイベントを企画中

→ つくって病室に飾ったり, 今後も発展的につくることのできるものとして「ヒンメリ」が題材として良いのではないか。



今後の活動予定

● 活動記録を作成

3年間の活動をまとめたもの(動画/冊子等)を作成し, 形として残していく



もし今後あらためて入院中の子どもたちの支援に興味がある人や活動としてチャレンジしたい!という後輩たちが現れたときの参考になるようなものを残したい

活動終了の決断

○持続可能な団体運営の難しさ

- ・メンバーの学業と活動の両立ができない
 - 病院側のスケジュールを優先(=平日のお昼のみ)しなければならない
 - ゼミやコースを超えた有志メンバーだからこそその予定の違い
- ・活動資金の確保と運用の課題
 - 活動資金を頂けることは非常に貴重であるが、“結果”を出さなければならない
 - 入院中の子どもたちに支援を押し付けることはできない
- ・関係各所との調整/企画/広報/関係づくりなど多岐にわたる役割
 - 学生主体だから自由に活動できる一方、信頼や専門性を十分に担保できない
 - ゼロからの試行錯誤が必要

活動の振り返り

石川（4年生）

活動を始めたばかり

自分に何ができるのか漠然とした不安。子どもに非日常感を楽しんでもらいたい。

活動する中で感じたこと

子どもたちが笑顔になる瞬間、この活動をして良かったと思える。大学生ならではの視点で子どもたちに「楽しみ」を提供できることの良さを実感したと同時に、現実的な面での課題に直面することも多々あった。

活動して考えたこと

理想と現実が噛み合わないこともあるという事実を身をもって学んだ。それでも、子どもたちが子どもらしくいられる環境はなくてはならない。

活動の振り返り

川岸（副代表）

活動を始めたばかり

入院中の子どもってどんな感じなんだろう。少しでも楽しい時間を提供できれば。

活動する中で感じたこと

制約が多く、やりたいこととできることの間での葛藤。

時折見せてくれる、子どもの子どものらしい姿が原動力になる。

活動して考えたこと

数は少なくとも、子どものニーズは確かにある。

治療から離れて一人の子どもとして過ごす時間を提供することの意義は大きい。

活動の振り返り

丸山（3年生）

活動を始めたばかり

病弱児に対する支援は需要があるだろう。病気で入院している子どもたちに楽しんでほしい。

活動する中で感じたこと

できること、やりたいことはあるが、病院とうまく連携をとるのは難しい。子どもたちが喜ぶような企画やものを考えることで、様々な視点を持つことができた。

活動して考えたこと

子どもが少しでも嬉しい・楽しいと思ってくれるのなら、病弱児を支援するボランティアの意義があるのではないかと考える。

活動の振り返り

山口（代表）

活動を始めたばかり

年齢の近い大学生がイベントや学習支援は助かるだろうし、子どもも嬉しいだろう

活動する中で感じたこと

EduMedという活動の意義やできることは何なのかに迷う（明確化できない葛藤）

でも、まったく必要ないわけではないし楽しそうな姿を見せてくれる

活動して考えたこと

教育で命を救うことはできない。でも、教育を必要としない子どもは居ない

3年間を振り返って

“命”を前にして“教育”は何ができるか？

3年間を振り返って

◎ 「入院児支援」という教育的課題に学生主体でチャレンジした

◎ 入院中の子どもたちの支援を行う意義を示すことができた

◎ 入院中の子どもたちに子どもらしい時間を届けることができた

今年度もご支援いただき、ありがとうございました。

そして、3年間という長いご支援を
本当にありがとうございました。

Welcome to Zenkōji! – Kids English Tour–

外国人観光客に善光寺を案内しよう

実施担当者：池田 夢海
指導教員：佐藤 和紀

活動の動機

- 小学生が“外国人と話す”
機会をつくりたい
- 小学生に“英語が通じた！”という
達成感を感じてほしい
- 外国人観光客にとって
“日本での温かい思い出”
となってほしい



実際に善光寺で観光客にインタビュー

活動の流れ

準備		活動			まとめ
9月	10月	11月	12月	1月	2月
小学校と連携 善光寺へ挨拶		練習 3回	練習1回 リハーサル1回 実践3回		最終報告会

活動の流れ

準備		活動			まとめ
9月	10月	11月	12月	1月	2月
小学校と連携 善光寺へ挨拶		練習 3回	練習1回 リハーサル1回 実践3回		最終報告会

実践の流れ



活動説明会 (Zoom) 10月19日

- 指導教員(佐藤先生)からの挨拶
- 運営学生(2名)挨拶
- サポート学生の紹介
- 活動の説明

サポート学生の役割

サポート大学生2名の役割

- 練習
 - ・子ども1名を、学生1名で担当
 - ・45分間の練習をサポート
- 本番
 - ・外国人観光客との会話のサポート
- 子どもの様子を保護者へ共有
 - ・コミュニケーションの様子を共有

サポート学生2人

310

練習3回目(善光寺) 11月26日

○アイスブレイク
(ジャンケンキャッチ&ゴー)

○移動時間にスモールトーク練習

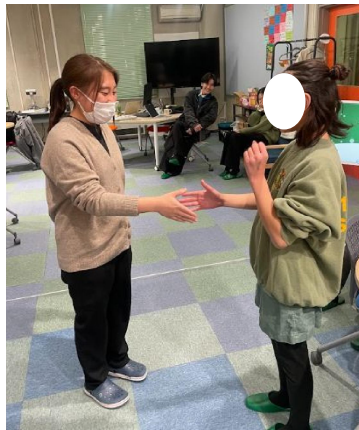
○善光寺で通し練習

【参加児童の様子】

- ・ノートを見ながら練習
- ・足りない説明箇所を確認

【改善点】

- ・ノートを見過ぎてしまい、声が外国人観光客に聞こえない可



練習4回目(学びセンター) 12月10日

○アイスブレイク
(カードゲーム)

○マレーシアについての紹介

○観光案内の練習

【参加児童の様子】

ノートを見ながら

- ・マレーシアのことについて興味深く聞いていた
- ・クイズに対し、楽しそうに推測していた
- ・質問に対し、一生懸命回答をしようとしていた

【改善点】

- ・相手の会話に対してリアクションをする



リハーサル(善光寺) 12月13日

○善光寺でのリハーサル

○移動時間にスモールトーク練習

○外国人と話す挑戦

【参加児童の様子】

- ・案内をスムーズにするための工夫を考える
- ・話しかけることに緊張している様子だったが、達成感を感じていた

【改善点】

- ・まだまだ下を見て観光案内をしている様子だった



実践 1 回目(善光寺) 12月20日

○3組の外国人観光客に観光案内

【観光案内をした方々】

- ・トルコ男性2名
- ・カナダ4人家族
- ・シドニー夫婦



【参加児童の様子】

- ・ノートを見ずに、指さしをしながら観光案内をしていた
- ・同い年の女の子とも交流していた

【改善点】

- ・質問をされたときに止まってしまう
- ・スタッフも六地藏について聞かれてわからない箇所があった



実践2回目(善光寺) 1月18日

○4組の外国人観光客に観光案内

【観光案内をした方々】

- ・トルコからの留学生1名
- ・オーストラリア4人家族
- ・オーストラリア3人家族
- ・オーストラリア4人家族



【参加児童の様子】

- ・質問を理解しようとし、自分の言葉で伝えようとしていた

【改善点】

- ・相槌が少なく、会話が一方通行になっている部分があった



実践3回目(善光寺) 1月25日

○2人の外国人観光客に観光案内

【観光案内をした方々】

- ・オーストラリアからの女性
- ・ドイツからの女性



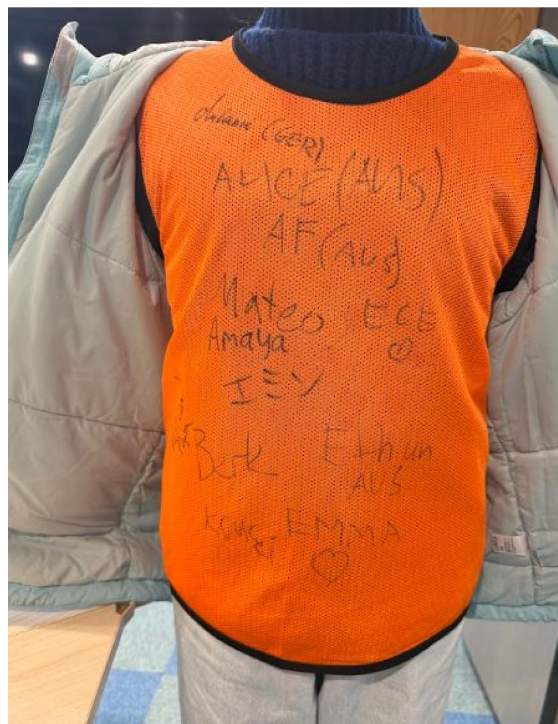
参加児童の様子

- ・落ち着いて観光案内をしている
- ・話しかけることへの抵抗が少ない
- ・自信をもって観光案内をしている様子



実践3回目(善光寺) 1月25日

たくさんの
サインをゲット!



振り返り会

- 一言ずつ活動への感想
- みんなへの感謝

参加児童の発言

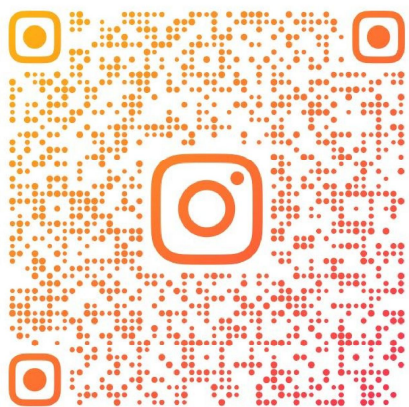
- ・外国人観光客に話すことが楽しかった。
- ・これからも話しかけてみたい。
- ・学生との思い出ができた。

インタビューでは…

「これまでは文章とかを勉強する感じだったけど、最近はお母さんを外国人観光客だと思って練習したり、誰かにむけて英語を練習したりするようになった」



Instagram



@ZENKOJIKIDS_ENGLISHTOUR

アカウント名

@zenkojikids_englishtour

参加児童の学びの場

社会との直接的な関わり

- ・ 小学校以外の**コミュニティの拡大**
- ・ 学生や善光寺の外国人観光客との多世代にわたる**幅広い交流**
- ・ 児童にとって身近な善光寺での**地域と密着した学び**

実践的な学びの機会

- ・ 学校での学習を飛び出した、**生きた英語の使用の場**
- ・ 異なる文化を持つ方々との**リアルな対話の実践**

池田自身の学び



「ゼロ」から
作り上げることの
難しさ



安心して
活動を支えてもらう
ために
必要なこと



周囲の支えによる
視点の広がり
と
安心感

池田自身の学び



「ゼロ」から作り上げることの難しさ

“善光寺” という歴史ある場を使用する

善光寺

- ・ 由緒ある場を貸すことへの不安
- ・ 嘘の情報を流さないか
- ・ 営利目的ではないか
- ・ どんな人が取り組むのか

- ▶ メールを通して活動の説明
- ▶ 対面でのあいさつ
- ▶ 活動日、時間の提示
- ▶ 善光寺についての知識を深める

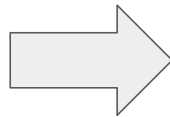
池田自身の学び



「ゼロ」から作り上げることの難しさ

活動を始める前

- 何か新しいことを始めることにワクワク
- 応募2週間前に参加を決意、準備開始



活動を進める中で

- 外部との**多くのやり取りが必要**だと知る
- 自分のメールスキルややり取りの基礎力のなさを痛感した

池田自身の学び



安心して活動を支えてもらうために必要なこと



スピード感の
重要性



丁寧な
やり取り

池田自身の学び



安心して活動を支えてもらうために必要なこと



スピード感の 重要性

迅速な返事・共有



- ・状況が正確に伝わり、的確な指導や助言をいただける

レスポンスが遅れてしまうと…



- ・支援者の不安を募ってしまう
- ・本来得られるはずの指導を逃し、成長の機会を逃す

池田自身の学び



安心して活動を支えてもらうために必要なこと

外部からお願いを要請する際に気を付けること

プロの方を お呼びする過程

- ・対面の流れで気軽に練習活動にお呼びした
- ・練習内容を変え、ともに活動を行った
- ・社会人を招く際の配慮不足を指摘された

- ▶ 確認を踏まえて文面に残す
- ▶ 活動変更後のものを明確に示し共有する
- ▶ 貴重な時間をいただくことを忘れない

池田自身の学び



安心して活動を支えてもらうために必要なこと



丁寧なやり取り



丁寧なやり取り

- ・ 継続して丁寧なやり取りを行うことで信頼して活動を支えていただける

文面での不備があると…



- ・ 自分が感じる以上の内容の詳細さや丁寧な発信を心がけないと、相手に不信感を与えてしまう。

池田自身の学び



周囲の支えによる視点の広がりや安心感



客観的な視点の提供

- ・ 自分一人では気づけない
課題の発見
- ・ 行き詰ったときの助言
- ・ 活動をより良くするための
新しい視点



心理面での支え

- ・ 自分の困難や悩みに寄り添い、最後まで活動を支えてくださった
- ・ 最後までやり遂げる
原動力となった

これからの姿勢



残りの学生生活そして教員生活に活かしていくこと

無知の自覚

- ・自分にはまだまだ知識が足りないということを痛感した
- ・文献や実践から学び、発展的なことをするための「土台作り」をしていきたい

責任の継続

- ・継続して責任を持ってやり切る経験をした
- ・右往左往しながらも最後までやり切ることで得られたメンタル面を持ち続けていきたい

これからの姿勢

身の回りの挑戦している人に
手を差し伸べられる存在 になりたい



支えてくださる方への感謝

多くの方に支えられたうえで実現させていただいていることを実感



活動にご協力いただきありがとうございました！



わくわくサイエンス・オン・ザ・ゴー 最終報告

出張！なんでも実験団

発表者
草川 妃莉
大和田 麻央

活動の流れ

- 7月 加茂小学校との打ち合わせ
第一回「シャボン玉の世界に入ろう」
- 9月 第二回「不思議な液体を体験しよう」
- 10月 長野県学生科学賞作品展覧会
「シャボン玉の世界に入ろう」「不思議な液体を体験しよう」
Educational Challenge 中間報告会
第三回「空気砲でドカーン！」
- 11月 キッズサイエンス 「これは液体？それとも固体？」
第四回「パチパチ！静電気の不思議」
- 12月 第五回「磁石の不思議」
- 2月 Educational Challenge 最終報告会
第六回「いろいろな実験大集合！ラストサイエンス」

活動の流れ

- 7月 加茂小学校との打ち合わせ
第一回「シャボン玉の世界に入ろう」
- 9月 第二回「不思議な液体を体験しよう」
- 10月 長野県学生科学賞作品展覧会
「シャボン玉の世界に入ろう」「不思議な液体を体験しよう」
Educational Challenge 中間報告会
第三回「空気砲でドカーン！」
- 11月 キッズサイエンス 「これは液体？それとも固体？」
第四回「パチパチ！静電気の不思議」
- 12月 第五回「磁石の不思議」
- 2月 Educational Challenge 最終報告会
第六回「いろんな実験大集合！ラストサイエンス」

加茂小学校との打ち合わせ



- 活動内容の確認
- 写真について
- 安全面の確認 など

第一回「シャボン玉の世界に入ろう」

わくわくサイエンス
出張！なんでも実験団

シャボン玉 の世界に入ろう！



場所：前庭
日時：7月9日(水)お昼休み
1時から1時20分

信州大学教育学部 Educational Challenge



第二回「不思議な液体を体験しよう」

わくわくサイエンス
出張！なんでも実験団

第2回 不思議な液体 を体験しよう！



対象：4・5・6年生
場所：前庭
日時：9月24日(水)
10時25分から10時40分

信州大学教育学部 Educational Challenge

前回の様子から、
対象を4・5・6年生に



「長野県学生科学賞作品展覧会」での活動



シャボン玉であそぼう!!

身近なものでシャボン液
 ・水 ・食器用洗剤
 ・洗濯のり ・グリセリン（砂糖でもできるよ!）

泡立てないことがポイントじゃぞ!

体験コーナー
 ・大きいシャボン玉
 大きいシャボン玉を作ったり、中に入ってみたりしよう!
 ・いろんなシャボン玉
 ストローやうちわ、ひもでいるるるシャボン玉を作ってみよう!

楽しむための約束
 ・シャボン液は口に入れないでね
 ・人のいないところに飛ばそう

信州大学教育学部 出張! なんでも実験団



ダイラダンシー

ダイラダンシーってなに? ダイラダンシーの仕組み

力を加えると!

体験コーナー
 「ダイラダンシーを触ってみよう!」
 強く握るとかたいお団子に!手を緩めるとドロドロ溶けだすよ!
 いろいろな触れ方をしてみよう!

「ダイラダンシーを作ってみよう!」
 片栗粉と水を混ぜるだけ!
 混ぜながら変化を感じてみよう!

「ダイラダンシーの上に立ってみよう!」
 立ったま手のときと、足踏みをするときで
 どんな違いがあるかな?体験してみよう!

楽しむための約束
 ダイラダンシーは口に入れたら、周りに飛ばしたくないようにして作ったものは持ち帰るのじゃぞ!
 手についているダイラダンシーは水で洗い流すのじゃぞ!

信州大学教育学部 出張なんでも実験団

活動の流れ

- 7月 加茂小学校との打ち合わせ
- 第一回「シャボン玉の世界に入ろう」
- 9月 第二回「不思議な液体を体験しよう」
- 10月 長野県学生科学賞作品展覧会
 「シャボン玉の世界に入ろう」「不思議な液体を体験しよう」
 Educational Challenge 中間報告会
- 第三回「空気砲でドカーン!」
- 11月 キッズサイエンス 「これは液体?それとも固体?」
 第四回「パチパチ!静電気の不思議」
- 12月 第五回「磁石の不思議」
- 2月 Educational Challenge 最終報告会
 第六回「いろんな実験大集合!ラストサイエンス」

前半の活動を振り返って

- 子どもたちと一緒に取り組めるような活動にする
- 短い時間の中で、子どもたちが楽しく活動を行えるものにした
- 対象学年に沿った活動内容を検討していく



第三回「空気砲でドカーン!!!」

対象学年：1，2，3年生

わくわくサイエンス
出張！なんでも実験団



第3回
くいきぼう
空気砲でドカーン!

学年：1・2・3年
場所：体育館
日時：10月31日(金)
1時から1時20分



信州大学教育学部 Educational Challenge



キッズサイエンス 「これは液体？それとも固体？」

日時：11月15日

題材：ダイラタンシー

ダイラタンシー

ダイラタンシーってなに？ ダイラタンシーの仕組み



体験コーナー

「ダイラタンシーを触ってみよう！」

強く揺るとかたいの粒子に！手を握るとドロドロ滑りやすい！
いろいろな触り方をしてみよう！

「ダイラタンシーを作ってみよう！」

片栗粉と水混ぜるだけ！
混ぜながら変化を感じてみよう！

「ダイラタンシーの上に立ってみよう！」

立って歩きのときと、足踏みをするときと
どんな違いがあるかな？体験してみよう！

楽しむためのお約束

ダイラタンシーは口に入れてはいけません！
服に飛ばしたりしないようにして作ったものは持ち帰るのじゃぞ！
手についたダイラタンシーは水で洗い流すのじゃぞ！

信州大学教育学部 出張なんでも実験団

ダイラタンシーに触れられるコーナー

ダイラタンシーを実際に作ってみるコーナー

すごい！

何でこんな風になるの？

お家でもやってみたい！

作ってみたい！



第四回「パチパチ！ 静電気の不思議」

わくわくサイエンス 出張！なんでも実験団

パチパチ！ 静電気の不思議！



日時：11月19日(水)
午後1時から午後1時20分
場所：体育館
学年：3・4・5年生
信州大学教育学部 Educational Challenge



どうやってたら
上手くいくかな？



静電気なら
知ってるよ！

第五回「磁石の不思議」

わくわくサイエンス
出張！なんでも実験団

磁石の不思議



場所：体育館
日時：12月22日(月)
自由時間 10時20分から・10時40分
信州大学教育学部 Educational Challenge



何で浮くことができるの？



どうやってたら上手く
回せるかな？



第六回「いろいろな実験大集合！ラストサイエンス」



色々な方向に動く



白く曇る

広報活動について



インスタグラムで活動に関する写真の投稿

@SCIENCE.EDU.LAB2.INFO

活動を振り返って



- どんな活動にしたら子どもたちが楽しめるのか考え、実践することができた
- 子どもたちが楽しそうに活動を行うことができた
- 継続的な活動にしていきたい
- 子どもたちも一緒に活動の作成に関わってけるようなものにしていきたい

ありがとうございました



Educational Challenge 最終報告

「みんなで模擬投票プロジェクト」

発表者
信州投票率上げようプロジェクト
会計 小山大輔（社会科教育コース3年）
監査 加藤颯太郎（ // ）
代表 古岩井陽喜（ // ）

本プロジェクトの概要

再掲

◇模擬投票授業など実施
学生：候補者役
生徒：公約表 → 投票体験
テーマ⇒「SNS時代の選挙」

◇活動成果

長野市長選挙啓発動画作成



長野市長選挙
10月26日

NAGANO
CITY

選挙
あなたは何を重視するか

政治の話は、あなたと友人だけでなく、
周りの人との関係が悪化する危険性も高めます。
大人の喧嘩は、子供の健康にも悪影響を及ぼします。

作成：▲STAP

再掲

◇内容

依頼：長野市選管

目的：市長選投票促進

媒体：YouTubeショート

豊野高等専修学校における出前授業



豊野高等専修学校における出前授業



豊野高等専修学校における出前授業

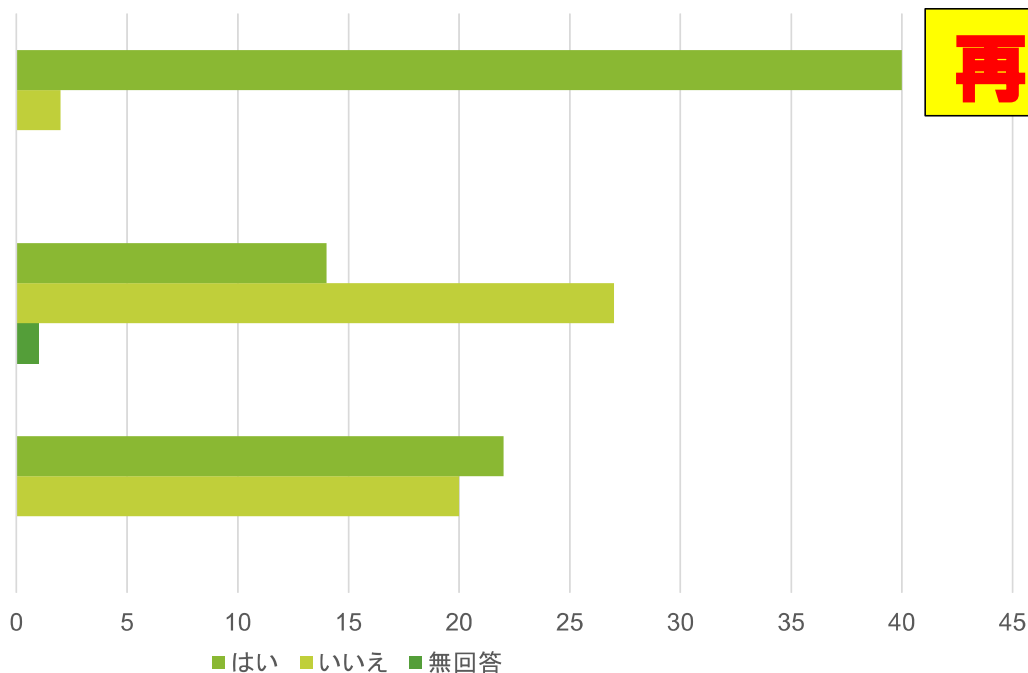


再掲

アンケート結果(豊野高等専修学校)



- SNSを使用して
情報入手する
ことが多いか
- 候補者の情報が各
種SNSでも発信さ
れていることを知
っているか
- SNSで見た候補者
の情報は、投票の
際に役立つと考
えるか

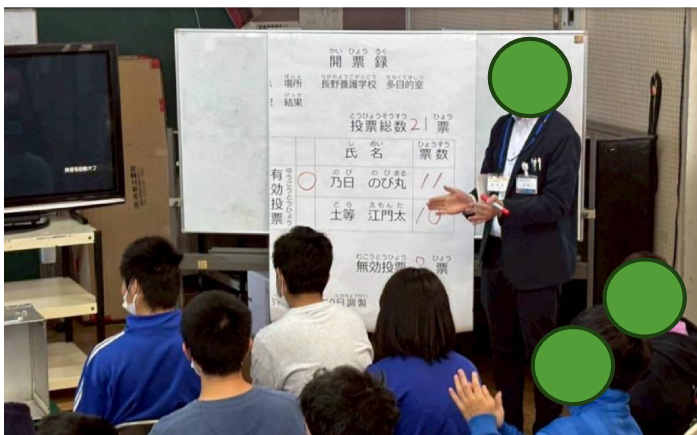


再掲

社会基礎A・Bにおける出前授業



長野養護学校における出前授業



<p>青猫党 あおねこうとう</p>	<p>昼寝党 ひるねとう</p>	<p>党派 とうは</p>	<p>令和七年十二月十日 ながのしちようせんきよ 長野市長選挙 こうほしやしめい 候補者氏名等掲示</p>
<p>土等 どら 江門太 えもんた</p>	<p>乃日 のび のび丸 のびまる</p>	<p>候補者氏名 こうほしやしめい</p>	

のび まる
①乃日 のび丸さん

がくせい よ そ
学生に寄り添ったまちづくり

えきまえしせつ かいはつ
①駅前施設の開発

こうこう がくひ かんぜんむりようか
②高校までの学費の完全無料化



どら えもんた
②土等 江門太さん

ながのしみん せいかつ まも
長野市民の生活を守る

しみんぜんいん げんきん くば
①市民全員に現金を配る

しょくひん ねだん さ
②食品の値段を下げる



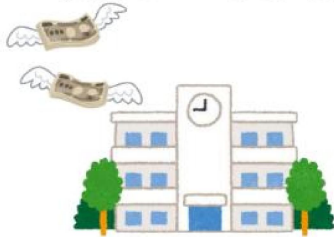
のび まる
①乃日 のび丸さん

えきまえしせつ かいはつ
①駅前施設の開発



のび まる
①乃日 のび丸さん

こうこう がくひ かんぜんむりょうか
②高校までの学費の完全無料化



のび まる
①乃日 のび丸さん

えきまえしせつ かいはつ
①駅前施設の開発

がくせい たの まち
学生が楽しめる街に！



のび まる
①乃日 のび丸さん

こうこう がくひ かんぜんむりょうか
②高校までの学費の完全無料化

ぜんいん まな
全員が学ぶことができる！



どら えもんた
②土等 江門太さん

しみんぜんいん げんきん くば
①市民全員に現金を配る



どら えもんた
②土等 江門太さん

しょくひん ねだん き
②食品の値段を下げる



どら えもんた
②土等 江門太さん

しみんぜんいん げんきん くば
①市民全員に現金を配る



どら えもんた
②土等 江門太さん

しょくひん ねだん き
②食品の値段を下げる



うわっ…
わたしの
学費
高すぎ!



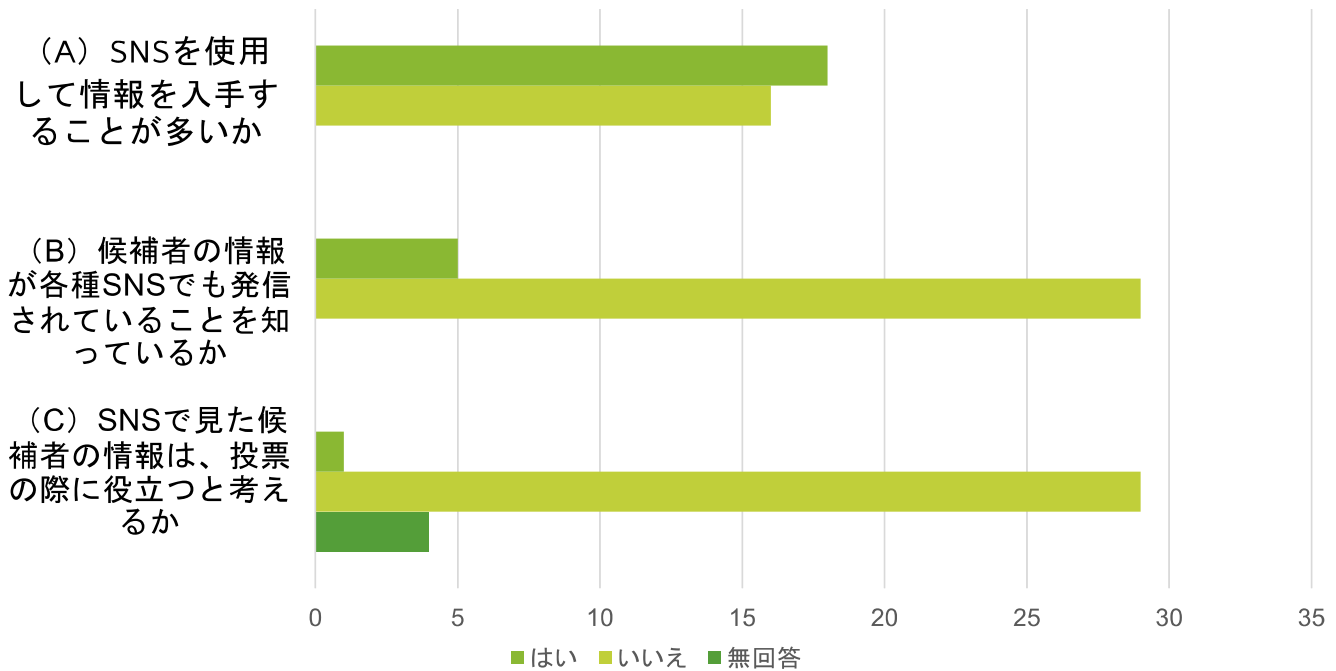
P
icipation



【悲報】
食料品、高すぎる…

AP
icipation

アンケート結果(長野養護学校1・2年生)

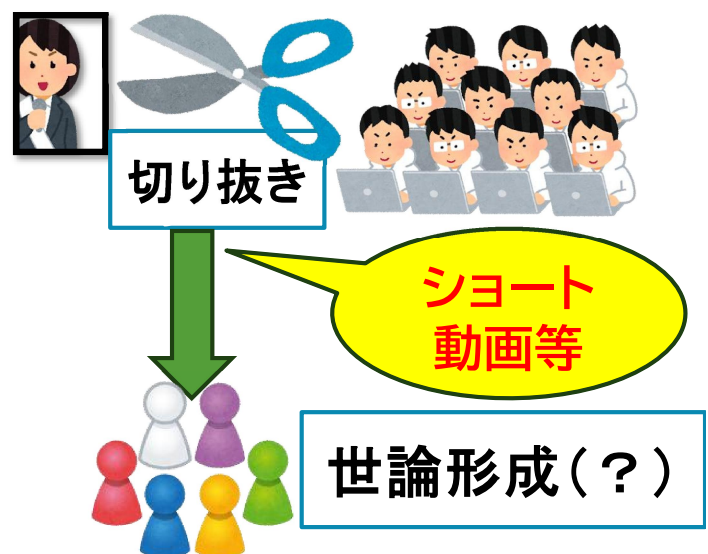


SNS時代の選挙

従来の認識



実態は…





切り抜き

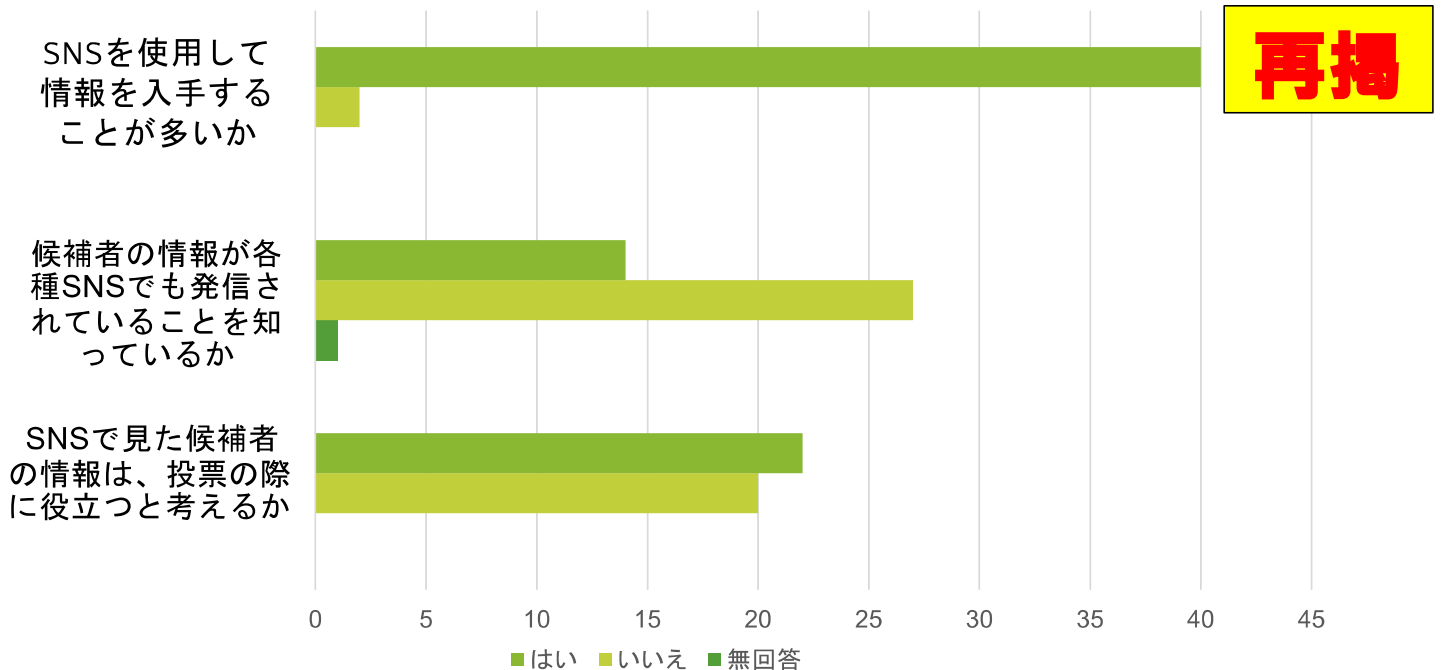
捏造



印象付け

AI

アンケート結果(豊野高等専修学校)



◇課題

- ・ショート動画がよく見えない生徒もいた(ショート動画の性質上、仕方のない部分もあるが…要改善)
- ・今日メジャーなタイプのショート動画でなかった

◇今後行いたいこと

- ・「第三者による発信」の分析、そのうえで実際作ってみる
- ・それらの出前授業での利用

このたびは本プロジェクトにご支援を賜り、
心より御礼申し上げます。



ステップアップ メイカーズプロジェクト

教職基盤形成コース 川嶋丈陽 平山昌大
指導教員 小倉光明

目次

1. プロジェクトの目的
2. メイカースペースについて
3. ご支援の御礼
4. メイカースペースでの実践
5. メイカースペースの作品
6. 今後の課題と展望

1. プロジェクトの目的

目的

メイカースペースでプログラミングやものづくりを行うことを通して、
児童生徒の **キャリアの視野を広げるための場** として提供する



「つくりたい」「やってみたい」を叶える場としてのメイカースペース

使われない教室となっていたコンピュータ室を引き続きメイカースペースとして改装し、
児童生徒が活用できるようにした

2. メイカースペースについて

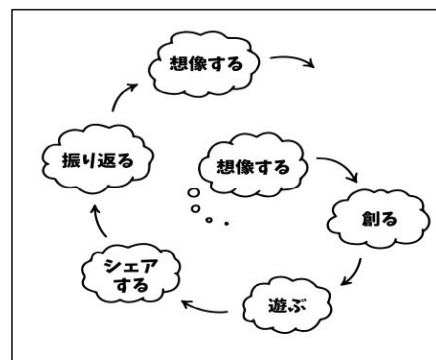
メイカースペースの設計

作ることで学ぶを実現するための環境構築

理論的背景として「クリエイティブラーニングスパイラル」が起こるような環境を設計

ミッチェル・レズニックは、「CLS」が実現される環境の条件として 4 つのPを提案している

Project (Project)
Passion (Passion)
Peer (ピア)
Play (プレイ)



図：クリエイティブラーニングスパイラル

2. メイカースペースについて

メイカースペースの設計（昨年度に加えて今年度）

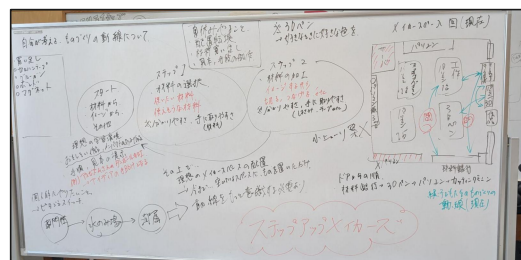
作ること学ぶを実現するための環境構築である4つのPに加えて、改めてものづくりを意識した**メイカースペースの配置転換**

Before

- ・それぞれの機材や材料からものを作る場所までが遠い
- ・機材の配置が曖昧である

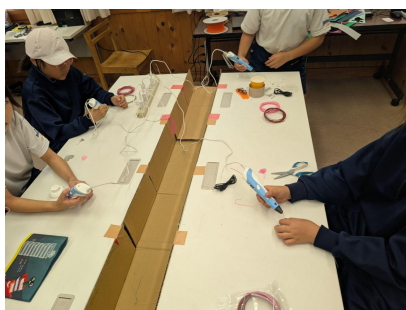
After

- ・ものづくりの動線(距離)を意識した配置
- ・機材の配置(明記など)をはっきりする



図：計画図

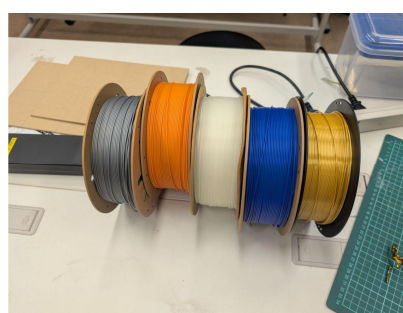
3. ご支援の御礼



・3Dペン(4台)

単純な造形にとどまらず, 3Dプリントしたものの**装飾**や**修復**をしたり, **立体物の造形**が可能であり, ものづくりの幅を広げるための3Dペン

3. ご支援の御礼

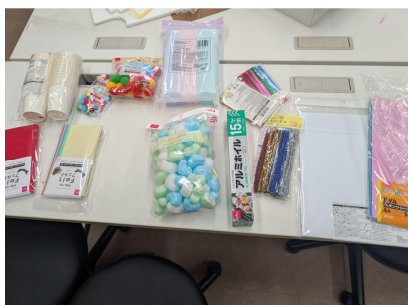


・3Dプリンタ(1台), フィラメント6色(7個)

手先が器用でなくても, 時間がなくても正確なものづくりを行い, **より高度なプロジェクトを 実行する** ための3Dプリンタ

複数台を稼働させることにより, 子どもたちの**創造を止めず, 効率を上げる**

3. ご支援の御礼



・その他材料(材料, 資材, 接着剤など)

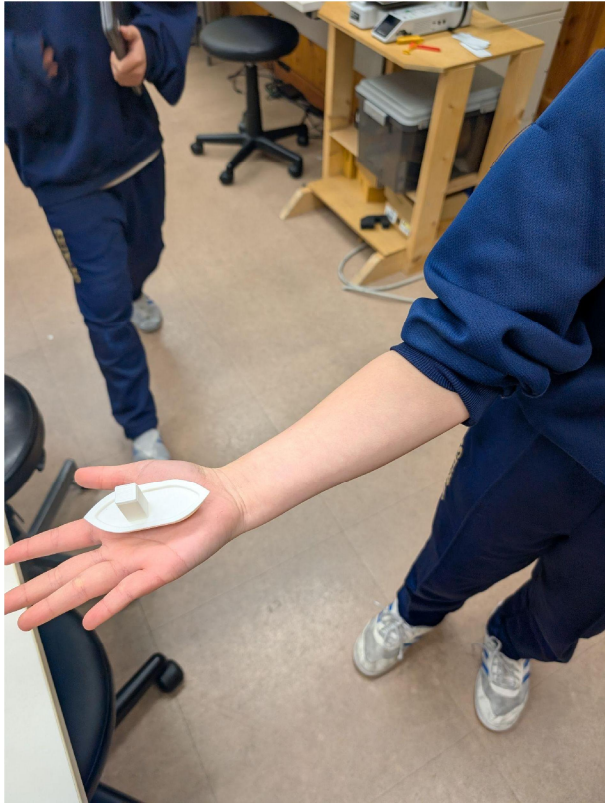
子どもたちの**創造を刺激し, ユニークな活動**を生み出し, 形にするために 様々な材料を用意した材料銀行

4. メイカースペースでの実践

- 授業で活用
- クラブ活動
- 休み時間での運用(イベント開催)
- 放課後の運用
- 特別支援の授業での活用

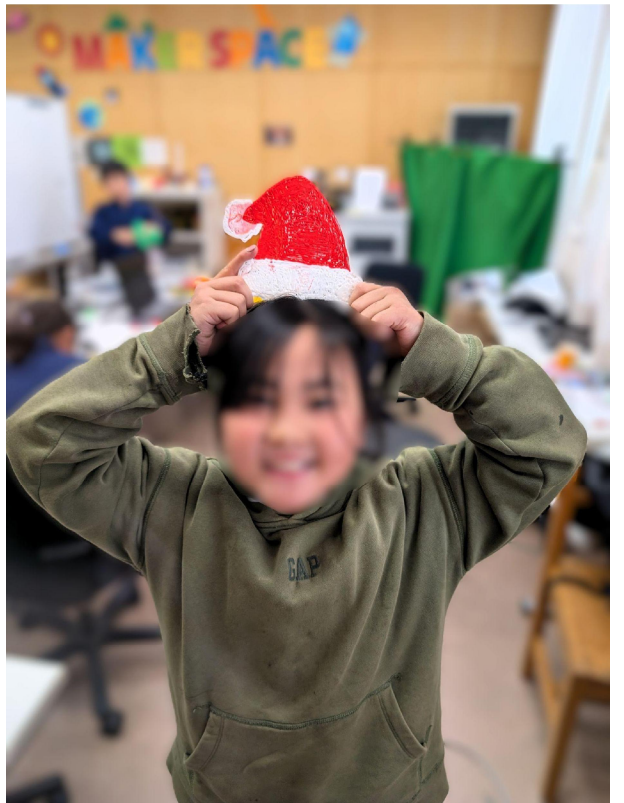
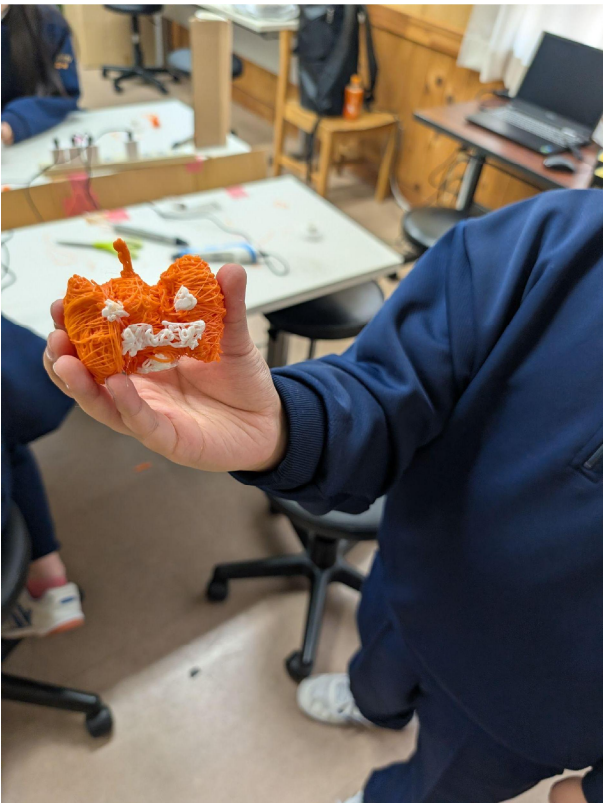
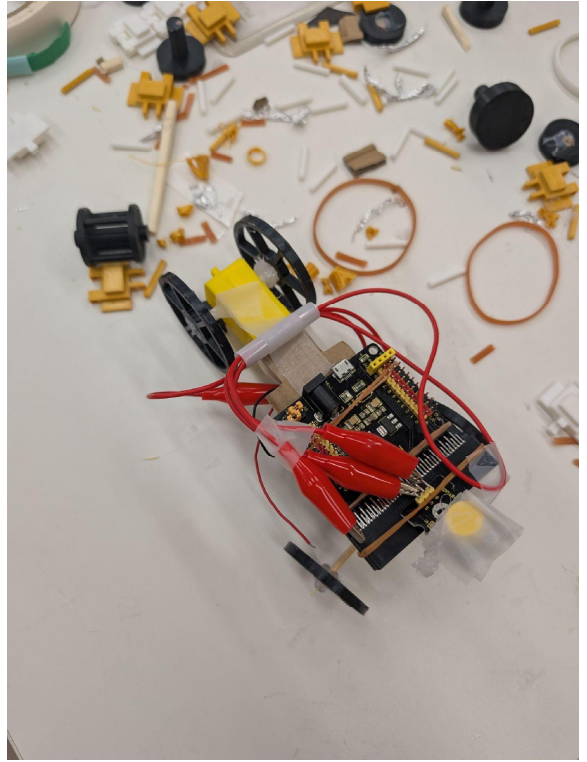
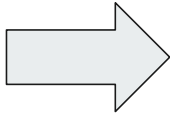
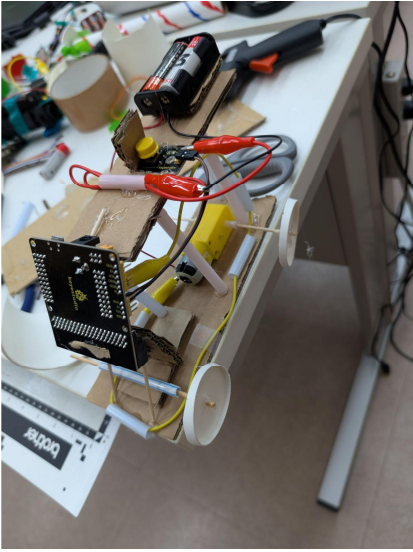


授業の活用

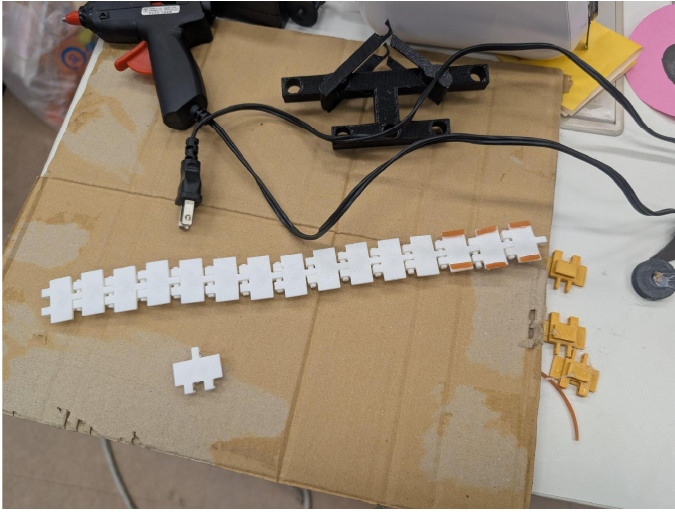
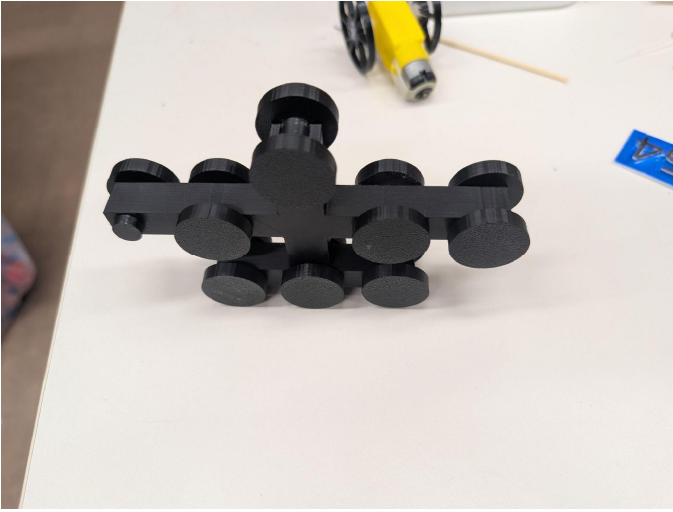




休み時間・放課後

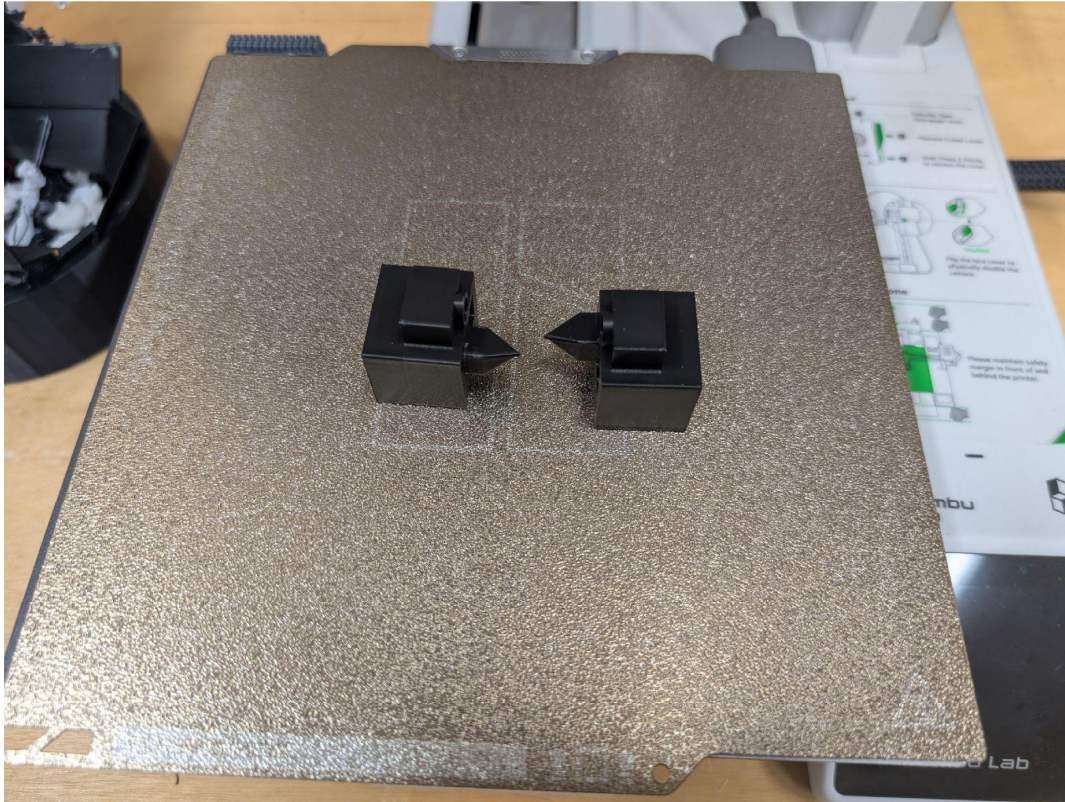




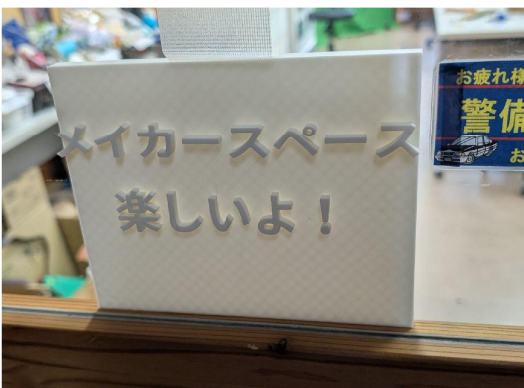


特支の授業での活用





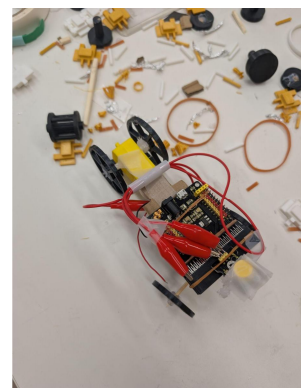
5. メイカースペースの作品(一部)



メイカースペースの看板

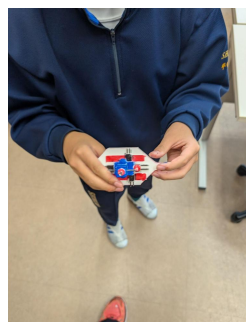


ルーレット

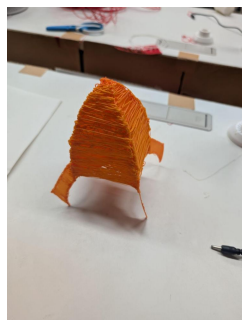


車

5. メイカースペースの作品(一部)



展示作品を模して応用した作品



3Dペンによる立体物の制作



材料銀行の材料を活用した作品

6. 今後の課題と展望

メイカースペースの現状(中間発表を踏まえて)

現状

・3Dペンの応用的な活用について

3Dペンの応用的な活用を支援する仕掛けについて、作りたいものを印刷し、なぞって制作できるようにしたことで、制作の質が向上した



6. 今後の課題と展望

メイカースペースの現状(中間発表を踏まえて)

課題

・利用方法について

利用方法の確認について、使用してはいけない時間帯に入室して
くる児童・生徒は、先生方や子どもたちと共通理解を図り、
減少した。

・片付けについて

片付けについて、子どもたちが片付けやすくなる仕掛けや呼びかけ
は行ったものの、限られた時間の制作のため、片付けせずにそのまま
帰ってしまう児童・生徒が未だに多い。



6. 今後の課題と展望

メイカースペースの現状

利用者の偏りのない増加，制作物の数と制作の質の向上が図られている。

課題

片付けについて

限られた時間の制作のため、片付けをせずにそのまま帰ってしまう児童生徒が多く、教員の負担となっている

展望

片付けについて、子どもたちと共通理解を図るためのルールを設定したり、制作に計画性をもたせる工夫をすることで時間を有効的に活用するような環境の設計や声掛けを実行したりする

制作に興味を持ってきた児童・生徒に対して、幅広い選択肢を与える

ご清聴いただきありがとうございました



結（むすび）～龍溪硯の制作を高遠高校の生徒とともに～

1年間の活動報告

1. 1年間の活動内容

- 6月23日 泉逸男先生の講義（@信州大学）
- 8月2日 大学生での硯制作
- 10月16日 第1回協働学習（@高遠高校）
- 11月7日 第2回協働学習（@信州大学）
- 12月19日～12月22日 信州大学教育学部学生書道展にてプロジェクトの成果を展示

2. 第1回協働学習 (@高遠高校)

【硯彫り】高遠高校にて

- ・海(墨を溜める部分)が深くなるように硯の内側をえぐるように深く彫った。
- ・硯を置いたときに据わりを良くするため硯の裏側に浅い凹みを彫った。
- ・大学生が適宜高校生に進捗の確認やアドバイスを行ったり、ともに硯のことなどを話し合いながら制作を進めていった。
- ・作業が行き詰まったときは泉先生からのアドバイスを受けた。



海



陸



3. 第2回協働学習 (@信州大学)

～磨き～

- 砥石を使って、硯面を整える。
- その後紙やすりを用いて、さらに丁寧に磨き上げる。

～作業の様子～

- 大学生と高校生でお互いの作品を評価し、改善点を話し合いながら作業に取り組んだ。
- 泉先生の指導を生かし、全員が硯を完成形に近づけることが出来た。



泉先生が学生達に指導する様子

3. 第2回講座（1）

～龍溪硯（龍溪石）を後世に伝えるために～

- 3つの班に分かれ、高校生と龍溪硯の活用法を考えた。
- 最後に班でまとめた内容を発表した。



～活動の様子～

- 龍溪石の活用法として箸立てや筆立て、箸置き、お皿等の実用的なアイデアが多かった。
- 教育の観点と関連させて話し合いを行った班もあった。



4. 本年度の成果

○本プロジェクトにおける目的

①高遠にゆかりのある「龍溪硯」を高遠で学ぶ高校生と共に制作したい。

→ 伝統的工芸品である龍溪硯の存在や文化資産としての重みについて高遠高校の皆さんと実際に制作することを通して学ぶことができた。

文房四宝（筆・墨・紙・硯のこと）の一つである硯本来の役割や専門的な知識について学ぶことができた。



伝統工芸としてこれまでに受け継がれてきた技能の一端に触れることで、継承者が減少して伝承の危機にある龍溪硯の魅力を次世代に伝えていきたいという思いが、大学生・高校生ともに高まった。

②郷土の誇るべき遺産や書道教育に関わるものについて知り、造詣を深めるきっかけとしたい。

→ 和硯の中でも名高い「龍溪硯」は、長野県の伝統的工芸品に指定されている。墨の磨り心地の良さと、赤褐色のサビを伴う見た目の美しさが特徴である。

「龍溪硯」の制作は8つの工程に分られる。制作の中の全ての工程において、硯工の高度な技能が求められることを学んだ。



実際に硯の制作を行うことで、硯工の方々が硯一つ一つの制作にどれほどの時間と思いを注いでいるのかを実感した。私たちが暮らす長野県にこれほど貴重な文化資産があることを喜ばしく思うと同時に、龍溪硯を伝承していくことの重要性を再確認した。

③プロジェクトの企画・運営や、高校生とのコミュニケーション場面を通して、将来教職に就いた際に活かすことができるような学びを獲得したい。

→ 高遠高校生との協働学習を2回行った。事前学習を元にアドバイスをする等コミュニケーションを図りながら硯制作を進めることができた。

ディスカッションの時間を設け、龍溪硯を伝承していくための方法について、高校生と話し合うことができた。



大学生のみで事前学習をしたり、高校生が話し合いに参加しやすい方法について模索したりすることができた。活動の前の事前準備の重要性や、相手の立場に立って考えることの大切さを改めて実感する機会になった。

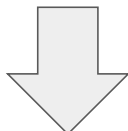
4. 本年度の成果

○発信の場の拡大

学部公式YouTubeだけではなく、新聞やテレビなど多様なメディアを通して活動を発信することができた。

学部公式YouTubeで配信していただいた動画は、大きな反響があった。

また、新聞記事を見て、書道展に自身の龍溪硯を持って来場して下さった方もいた。



自分たちの活動をたくさんの場所・方法で発信して行くことの重要性に改めて気づいた



図版1：信濃毎日新聞2025(R7)年11月8日(土)号



図版2：長野市民新聞2025(R7)年11月18日(火)号



図版3：長野市民新聞2025(R7)年12月20日(土)号

本プロジェクトを、
「Educational Challenge 2025」において採択いただくと同時に、
たくさんの方々からご支援を賜りました。
厚く御礼申し上げます。

